

にした時、私はこの画材屋さんにも、商売を抜きにした何かを感じたのです。絵画教室と大々的に看板を立てている所で、生徒さんの絵を外に飾っているのを見たことはありましたが、画材屋さんで飾っているのは始めてでした。大抵は売りの物が置かれていたその場所に、大事そうに丁寧に置かれている生徒さんやお客さんの絵を見て、この画材屋さんを詳しく調べてみたいという衝動に駆られました。

### 絵を教える画材屋さん

その画材屋さんは、向町にある「がくぶちと画材のエグチ」というお店です。中へ入ると、ごちゃまじりとした店内には、所狭しとたくさんの画材が置いてあります。



絵を描く道具以外にも、子供の工作用品や、アニメのセル画など、色々なものが置いてあるので、見ていると全然飽きません。それに加えて、子供がお小遣い程度で買える物も結構ありました。私の子供も、自分で作るお面を買ってきて、家でせつせとペインティング(着色)して、出来上がったお面を顔にかぶり喜んでいました。今年で開店7年目に入るといってこのお店は、お客さんからのたつての要望で、4年ほど前から、格安の料金で水彩画や油絵を教えています。店主いわく、

「お店に生徒さんやお客さんの絵を飾るのは2つの訳があるとのこと。一つは、公衆の面前に飾ること、それが生徒さんの励みになり、絵を描く上での上達のステップになること。もう一つは、道行く人が、飾られた絵に目を留め、様々な批評をお店に返してくれることで、店主と道行く人がコミュニケーションをとることができるからだと思います。中でも小学生の子供たちが、同級生の絵を発見した時の反響はかなり大きいとのことでした。このような、絵を描くだけにとどまらない人と人との関係、人の輪が自然と生まれてくるということ、店主は大事にしているということでした。学校に行けない子供、会社に行けない大人が増える昨今、私にはこれがとても大事なキーワードのように思えました。お店のリポートをしている中、軽やかな筆さばきで、少年の絵を今まさに完成させようと一心に絵を描く、ご婦人がいらっしやいました。私はこのかたからもお話を



何うことができました。ご婦人は、一昨年から週1回程度の割合で、油絵を習いに来ているということでした。このかたが絵を習うことになったきっかけは、店内に飾られている絵に魅せられ、ぜひ自分もこういう絵を描いてみたいと思ったからということでした。近々、銀行のロビーに自分の絵を飾るといってご婦人の目は、子供のようにキラキラと輝いていました。

### おわりに

市内には色々な種類のお店があります。ぜひ皆さんも、ご自分のお気に入りのお店を探してみてください。いかがでしょうか。

最後にこのリポートを書くにあたって、ご協力いただきました皆さんに心から感謝を申し上げます。

